

## ■室蘭工業大－北海道科学大・札幌大合同、雨中の対戦は引き分け。 春季オープン戦が終了

北海道学生アメリカンフットボール連盟加盟校の春季オープン戦は最終日の7月17日、札幌市豊平区の札幌大グラウンドで、室蘭工業大と北海道科学大・札幌大合同チームの対戦が行われ、6－6で引き分けた。当初、合同チームに参加予定だった北海道医療大は、大学の新型コロナウイルス対策で活動休止になったため、この日の試合は不参加となった。また、部員不足のため両チームともOBが応援出場した。

午前中から雨が降り出し、試合は雨中の熱戦となった。先制したのは北海道科学大・札幌大合同チーム。第1Q6分、敵陣23ヤードからの攻撃で科学大のQB広島拳（2年、札幌新陽高）から札幌大のRB小金龍東主将（4年、恵庭北高）へのパス、RB小金のダイブなどでボールを進め、最後はRB小金が1ヤードを飛び込んだ。PATのキックは失敗したが6－0とした。

室蘭工業大の反撃は第1Q10分。RB北村朋也主将（3年、釧路北陽高）の好パントリターンで、敵陣25ヤードで攻撃権を得ると、QB渡辺陸（3年、兵庫・尼崎小田高）からTE和田智登（4年、東京・産業技術高専）への25ヤードTDパスがいきなり決まった。PATのキックは外したが、6－6の同点に追いついた。

第2Q以降は科学大のRB中嶋陽涼（4年、市立函館高）と室蘭工業大のRB富樫司（2年、札幌清田高）がともに力走を見せたが、グラウンドコンディションの悪化も加わってインターセプト、ファumbleが相次ぎ、両チームとも追加点を挙げられなかった。

室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「雨の中の試合は貴重な経験になった。TDパスはQBが成長した証拠」と収穫を上げた。TDキャッチのTE和田は「雨だったので、キャッチしたら絶対にボール





から手を離さないように意識した。QBの渡辺とパスのコースやタイミングをしっかりと練習してきた」と胸を張った。また、札幌大のRB小金は「一瞬、穴がふさがったので外へコースを切って飛び込んだ。札幌大選手のTDは久しぶりなのでは」と感慨深げ、科学大のRB中嶋は「ラインのブロックが良かったので走れた。自分たちの力を確認できた」と春のシーズンを総括した。